10/18 Tuseday

放射性物質の測定法と考え方

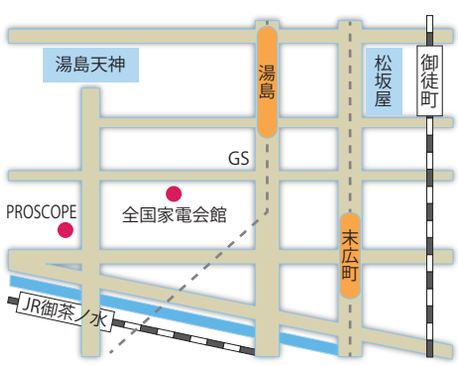
― 放射性セシウム500Bq/kgの基準値を考える ―

小豆川 勝見 (しょうずがわ かつみ)
1979年神奈川県生まれ。2008年東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学、同年同研究科助教。博士(学術)。研究炉を用いて環境試料の元素分析を行う放射化分析の研究に携わる。東日本大震災以降、福島第一原子力発電所から0km地点をはじめ、多くの地点で試料を採取し東京大学アイソトープ総合センターにて放射性物質の測定を行っている。

放射性物質という言葉は東日本大震災以降、聞き飽きるほどメディアに登場してきました。しかし、環境中の放射性物質を測定する研究分野は「放射化学」という化学の中でも決してメジャーではない分野が担当しています。このため、Bq(ベクレル)やSv(シーベルト)という単位やその数字の大小は理解できても「どうやって測るのか」については、理系の大学院生でも知られていないことが多くあります。そのため検査機関で測定された値の意味をきちんと理解することが、放射性物質を正しく理解することに繋がります。

食品や飲料水の放射性物質の暫定基準値は、核種や食品の種類によって値が異なります。一例を挙げれば、穀類に含まれる放射性セシウムの暫定基準値は1kgあたり500Bqと法令によって定められています。この「1kgあたり500Bq」という基準値が実際の測定現場ではどのような意味を持つのか、また検査の結果示される「不検出」の意味とは何か、できるだけ専門用語を使わずに詳しく解説します。食品以外にも土壌や植物片などに含まれる放射性物質の測定結果についても都内の公園など身近な例を挙げながらご説明する予定です。

最後に福島第一原子力発電所から20km圏内の放射性物質の拡散について、これまでに明らかになってきたデータに基づき、チェルノブイリ事故との比較を行います。



■ 日　時　2011年10月18日(火)　13:30 - 15:30
■ 場　所　全国家電会館　1階会議室
■ 所在地　〒113-0034　東京都文京区湯島3-6-1
TEL:03-3832-4291(代表)
■ 入場料　無料(事前申し込みが必要です)
■ お問合せ　株式会社プロスコープ
TEL:03-3833-6984(代表)　担当:永井